

演習問題 2.1

- (1) 5 の倍数となるような自然数全体の集合を表せ。
- (2) 4 で割ると余りが 3 となるような自然数全体の集合を表せ。
- (3) 3 で割ると余りが 2 であり, 5 で割ると余りが 3 となるような自然数全体の集合を表せ。

求める集合に名前をつけ A としておく。

- (1) $A = \{5k \mid k \in \mathbb{N}\}$ である。
- (2) $A = \{4k - 1 \mid k \in \mathbb{N}\}$ である。 $A = \{4k + 3 \mid k \in \mathbb{N}\}$ は間違い。これでは 3 が A に含まれない。この表示では余りが直接は見にくいので $A = \{4(k-1) + 3 \mid k \in \mathbb{N}\}$ とも書ける。また $\mathbb{N}_0 = \mathbb{N} \cup \{0\}$ として $A = \{4k + 3 \mid k \in \mathbb{N}_0\}$ という書き方もできる。
- (3) 3 で割ると余りが 2 である集合と 5 で割ると余りが 3 である集合の共通部分を少し調べてみると, 15 で割ると 8 余る集合になっていることが予想される。最初にそれを示す。

n をこの集合の元とする。3 で割ると余りが 2 なので \mathbb{N}_0 のある元 k_1 を用いて $n = 3k_1 + 2$ と書ける。5 で割ると余りが 3 なので \mathbb{N}_0 のある元 k_2 を用いて $n = 5k_2 + 3$ と書ける。 $5k_2 + 3 = 3k_1 + 2$ なので $5k_2 + 1 = 3k_1$ となっている。 k_2 を 3 で割った余りを r とすると, $r = 0$ または 2 または 3 であり, ある $k_3 \in \mathbb{N}_0$ を用いて $k_2 = 3k_3 + r$ と書ける。このとき $5(3k_3 + r) + 1 = 15k_3 + 5r + 1$ は 3 で割り切れる。 $r = 0$ のときこの数を 3 で割った余りが 1 になるので, $r \neq 0$ である。また $r = 2$ のときこの数を 3 で割った余りは 2 になるので $r \neq 2$ である。 $r = 1$ のときは 3 で割り切れるので $r = 1$ であることが分かる。よって $k_2 = 3k_3 + 1$ と書くことができる。

$$n = 5k_2 + 3 = 5(3k_3 + 1) + 3 = 15k_3 + 8$$

となるので, n は 15 で割ると余りが 8 になる。逆に 15 で割ると余りが 8 である自然数は, 5 で割ると余り 3, 3 で割ると余り 2 である。上により $A = \{15k + 8 \mid k \in \mathbb{N}_0\}$ となる。

ここでの議論を眺めると, 書き方という問題もあるが, \mathbb{N} ではなくいつそ \mathbb{N}_0 を自然数と定義したほうが議論がすっきりすると思われる。これ以外にも種々の理由があり, \mathbb{N}_0 を自然数としている本もある。個人的にはその方がすっきりしてよいと考えてはいるが, この講義ではその立場は採用しない。

演習問題 2.2

- (1) 例 2.3 の (2) を証明せよ。
- (2) $\mathbb{N} \supseteq \mathbb{Z}$ ではないことを上の定義に基づいて証明せよ。
- (3) $\mathbb{N} = \mathbb{Z}$ ではないことを上の定義に基づいて証明せよ。

(1) n を $\{4k \mid k \in \mathbb{N}\}$ の任意の元とすると, ある自然数 k が存在して $n = 4k$ と書ける。このとき $k_1 = 2k$ とおくと $n = 4k = 2 \cdot 2k = 2k_1$ なので $n \in \{2k \mid k \in \mathbb{N}\}$ となっている。よって $\{4k \mid k \in \mathbb{N}\} \subseteq \{2k \mid k \in \mathbb{N}\}$ が成立している。

(2) $\mathbb{N} \supseteq \mathbb{Z}$ の定義は \mathbb{Z} の任意の元 a が \mathbb{N} に含まれていることであつた。即ち

$$\forall a, a \in \mathbb{Z} \implies a \in \mathbb{N}$$

である。この命題の否定は

$$\exists a \in \mathbb{Z}, a \in \mathbb{Z} \text{ かつ } a \notin \mathbb{N}$$

である。 a として -1 をとってくると $-1 \in \mathbb{Z}$ かつ $-1 \notin \mathbb{N}$ となっているので、否定命題が証明される。よってもとの $\mathbb{N} \supseteq \mathbb{Z}$ は正しくないことが示された。

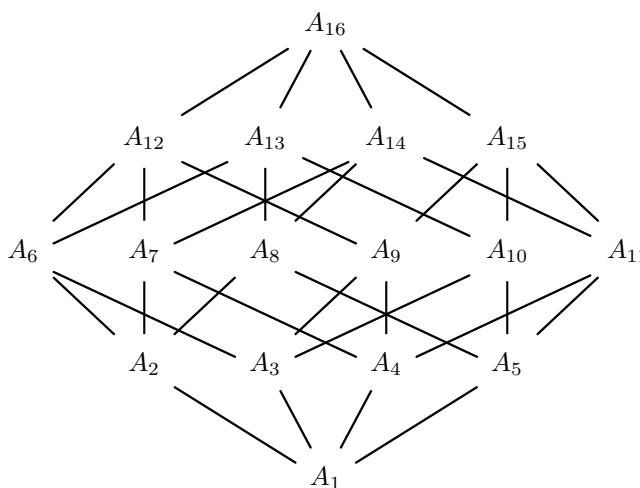
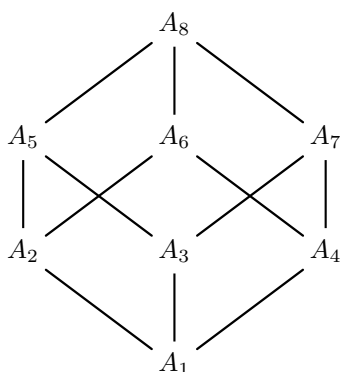
(3) $\mathbb{N} = \mathbb{Z}$ の定義は $\mathbb{N} \subseteq \mathbb{Z}$ および $\mathbb{N} \supseteq \mathbb{Z}$ が共に成立することであった。(2)より $\mathbb{N} \supseteq \mathbb{Z}$ が成立しないので、 $\mathbb{N} = \mathbb{Z}$ は成立しない。

演習問題 2.3 次の集合 A に対しその部分集合をすべて列挙せよ。またその部分集合の間に成立する包含関係 (\subseteq, \subsetneq) を調べよ。

(1) $A = \{1, 2, 3\}$

(2) $A = \{1, 2, 3, 4\}$

(1) 部分集合をすべて列挙すると $A_1 = \{\}, A_2 = \{1\}, A_3 = \{2\}, A_4 = \{3\}, A_5 = \{1, 2\}, A_6 = \{1, 3\}, A_7 = \{2, 3\}, A_8 = \{1, 2, 3\}$ である。成立する包含関係は $A_1 \subseteq A_2, A_1 \subseteq A_3, A_1 \subseteq A_4, A_1 \subseteq A_5, A_1 \subseteq A_6, A_1 \subseteq A_7, A_1 \subseteq A_8, A_2 \subseteq A_5, A_2 \subseteq A_6, A_2 \subseteq A_8, A_3 \subseteq A_5, A_3 \subseteq A_7, A_3 \subseteq A_8, A_4 \subseteq A_6, A_4 \subseteq A_7, A_4 \subseteq A_8, A_5 \subseteq A_8, A_6 \subseteq A_8, A_7 \subseteq A_8$ である。これらは $A_i \subsetneq A_j$ も成立している。これらに加え $A_i \subseteq A_i (i = 1, \dots, 8)$ がある。これに関しては $A_i \subsetneq A_i$ は成立しない。上で述べなかった集合同士は $A_i \not\subseteq A_j$ である。これを下図左の様に表すと分かりやすいかもしれない。線は真部分集合の関係になることを表しており、線を下にたどっていけるもののみが真部分集合になっている。



(2) 部分集合をすべて列挙すると $A_1 = \{\}, A_2 = \{1\}, A_3 = \{2\}, A_4 = \{3\}, A_5 = \{4\}, A_6 = \{1, 2\}, A_7 = \{1, 3\}, A_8 = \{1, 4\}, A_9 = \{2, 3\}, A_{10} = \{2, 4\}, A_{11} = \{3, 4\}, A_{12} = \{1, 2, 3\}, A_{13} = \{1, 2, 4\}, A_{14} = \{1, 3, 4\}, A_{15} = \{2, 3, 4\}, A_{16} = \{1, 2, 3, 4\}$ である。部分集合の関係は省略した。前問の様に図右をみれば分かるであろう。

演習問題 2.4 次の A, B, C に関し $A \cap B, A \cup B, B \cap C, B \cup C, A \cap C, A \cup C, (A \cap B) \cap C, (A \cup B) \cup C$ を求めよ。また $A \cap (B \cup C), (A \cap B) \cup (A \cap C), A \cup (B \cap C), (A \cup B) \cap (A \cup C)$ を求めよ。

(1) $A = \{1, 2, 3, 4\}, B = \{1, 3, 5, 6\}, C = \{1, 2, 6, 7\}$

(2) $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}, B = \{1, 2, 3\}, C = \{5, 6, 7\}$

(3) $A = \{1, 2, 3, 4\}, B = \{1, 3, 5\}, C = \{\}$

(1) $A \cap B = \{1, 3\}$, $A \cup B = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\}$, $B \cap C = \{1, 6\}$, $B \cup C = \{1, 2, 3, 5, 6, 7\}$,
 $A \cap C = \{1, 2\}$, $A \cup C = \{1, 2, 3, 4, 6, 7\}$, $(A \cap B) \cap C = \{1\}$, $(A \cup B) \cup C = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7\}$
 $A \cap (B \cup C) = \{1, 2, 3, 4\} \cap \{1, 2, 3, 5, 6, 7\} = \{1, 2, 3\}$, $(A \cap B) \cup (A \cap C) = \{1, 3\} \cup \{1, 2\} =$
 $\{1, 2, 3\}$, $A \cup (B \cap C) = \{1, 2, 3, 4\} \cup \{1, 6\} = \{1, 2, 3, 4, 6\}$, $(A \cup B) \cap (A \cup C) = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\} \cap$
 $\{1, 2, 3, 4, 6, 7\} = \{1, 2, 3, 4, 6\}$

(2) $A \cap B = \{1, 2, 3\}$, $A \cup B = \{1, 2, 3, 4, 5\}$, $B \cap C = \{\}$, $B \cup C = \{1, 2, 3, 5, 6, 7\}$, $A \cap C = \{5\}$,
 $A \cup C = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7\}$, $(A \cap B) \cap C = \{\}$, $(A \cup B) \cup C = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7\}$

$A \cap (B \cup C) = \{1, 2, 3, 4, 5\} \cap \{1, 2, 3, 5, 6, 7\} = \{1, 2, 3, 5\}$, $(A \cap B) \cup (A \cap C) = \{1, 2, 3\} \cup$
 $\{5\} = \{1, 2, 3, 5\}$, $A \cup (B \cap C) = \{1, 2, 3, 4, 5\} \cup \{\} = \{1, 2, 3, 4, 5\}$, $(A \cup B) \cap (A \cup C) =$
 $\{1, 2, 3, 4, 5\} \cap \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7\} = \{1, 2, 3, 4, 5\}$

(3) $A \cap B = \{1, 3\}$, $A \cup B = \{1, 2, 3, 4, 5\}$, $B \cap C = \{\}$, $B \cup C = \{1, 3, 5\}$, $A \cap C = \{\}$,
 $A \cup C = \{1, 2, 3, 4\}$, $(A \cap B) \cap C = \{\}$, $(A \cup B) \cup C = \{1, 2, 3, 4, 5\}$

$A \cap (B \cup C) = \{1, 2, 3, 4\} \cap \{1, 3, 5\} = \{1, 3\}$, $(A \cap B) \cup (A \cap C) = \{1, 3\} \cup \{\} = \{1, 3\}$,
 $A \cup (B \cap C) = \{1, 2, 3, 4\} \cup \{\} = \{1, 2, 3, 4\}$, $(A \cup B) \cap (A \cup C) = \{1, 2, 3, 4, 5\} \cap \{1, 2, 3, 4\} =$
 $\{1, 2, 3, 4\}$

演習問題 2.5 A, B, C を集合とする。

(1) $A \cap (B \cup C) = (A \cap B) \cup (A \cap C)$

(2) $A \cup (B \cap C) = (A \cup B) \cap (A \cup C)$

を証明せよ。

[ヒント:] これらは、2つの集合が等しい、ということを示す問題である。2つの集合 A, B が $A = B$ である、ということの定義は、「 $A \subseteq B$ かつ $B \subseteq A$ 」ということだったので、 $A = B$ を示せ、ということとは、「 $A \subseteq B$ かつ $B \subseteq A$ 」を示せ、ということである。

$A \subseteq B$ の定義は、「 A の全ての元が B に含まれる」ということだったので、上の問題 (1) について言うならば、

$x \in A \cap (B \cup C)$ ならば $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ であることを示し、 $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ ならば $x \in A \cap (B \cup C)$ であることを示せば良い、ということになる。

(1) 最初に $x \in A \cap (B \cup C)$ ならば $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ であることを示す。 x を $A \cap (B \cup C)$ の任意の元とする。このとき

$$x \in A \text{ かつ } x \in B \cup C$$

が成立している。 $x \in B \cup C$ なので $x \in B$ または $x \in C$ が成立している。 $x \in B$ が成立するときは $x \in A \cap B$ なので

$$x \in A \cap B \subseteq (A \cap B) \cup (A \cap C)$$

より $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ が成立する。また $x \in C$ が成立するときは $x \in A \cap C$ なので

$$x \in A \cap C \subseteq (A \cap B) \cup (A \cap C)$$

より $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ が成立する。いずれの場合も成立するので、成立が示された。

次に $x \in (A \cap B) \cup (A \cap C)$ ならば $x \in A \cap (B \cup C)$ であることを示す。 x を $(A \cap B) \cup (A \cap C)$ の任意の元とする。このとき

$$x \in A \cap B \text{ または } x \in A \cap C$$

が成立している。 $x \in A \cap B$ が成立するときは $B \subseteq B \cup C$ なので

$$x \in A \cap B \subseteq A \cap (B \cup C)$$

より $x \in A \cap (B \cup C)$ が成立する。 $x \in A \cap C$ が成立するときは $C \subseteq B \cup C$ なので

$$x \in A \cap C \subseteq A \cap (B \cup C)$$

より $x \in A \cap (B \cup C)$ が成立する。いずれの場合も成立するので、成立が示された。

(2) 最初に $x \in A \cup (B \cap C)$ ならば $x \in (A \cup B) \cap (A \cup C)$ であることを示す。 x を $A \cup (B \cap C)$ の任意の元とする。このとき

$$x \in A \text{ または } x \in B \cap C$$

が成立している。 $A \subseteq A \cup B$ かつ $A \subseteq A \cup C$ なので $A \subseteq (A \cup B) \cap (A \cup C)$ が成立している。 $x \in A$ が成立するときは

$$x \in A \subseteq (A \cup B) \cap (A \cup C)$$

より $x \in (A \cup B) \cap (A \cup C)$ が成立する。

$B \subseteq A \cup B$ かつ $C \subseteq A \cup C$ より $B \cap C \subseteq (A \cup B) \cap (A \cup C)$ が成立する。 $x \in B \cap C$ が成立するときは

$$x \in B \cap C \subseteq (A \cup B) \cap (A \cup C)$$

より $x \in (A \cup B) \cap (A \cup C)$ が成立する。いずれの場合も成立するので、成立が示された。

次に $x \in (A \cup B) \cap (A \cup C)$ ならば $x \in A \cup (B \cap C)$ であることを示す。 x を $(A \cup B) \cap (A \cup C)$ の任意の元とする。このとき

$$x \in A \cup B \text{ かつ } x \in A \cup C$$

が成立している。(a) $x \in A$ の場合と (b) $x \notin A$ の場合に分ける。

(a) の場合は $A \subseteq A \cup (B \cap C)$ より $x \in A \cup (B \cap C)$ が成立する。

(b) の場合 $x \in A \cup B$ かつ $x \notin A$ なので $x \in B$ が成立している。また $x \in A \cup C$ かつ $x \notin A$ なので $x \in C$ が成立している。よって $x \in B \cap C$ である。 $B \cap C \subseteq A \cup (B \cap C)$ なので $x \in A \cup (B \cap C)$ が成立する。

いずれの場合も成立しているので、成立が示された。

演習問題 2.6 演習問題 2.4 の集合 A, B に対し $A - B, A^c, A \times B$ を求めよ。ただしここで全体集合は $X = \{1, 2, \dots, 7\}$ とする。

(1) $A = \{1, 2, 3, 4\}, B = \{1, 3, 5, 6\}$ なので, $A - B = \{2, 4\}, A^c = \{5, 6, 7\}, A \times B = \{(1, 1), (1, 3), (1, 5), (1, 6), (2, 1), (2, 3), (2, 5), (2, 6), (3, 1), (3, 3), (3, 5), (3, 6), (4, 1), (4, 3), (4, 5), (4, 6)\}$

(2) $A = \{1, 2, 3, 4, 5\}, B = \{1, 2, 3\}$ なので, $A - B = \{4, 5\}, A^c = \{6, 7\}, A \times B = \{(1, 1), (1, 2), (1, 3), (2, 1), (2, 2), (2, 3), (3, 1), (3, 2), (3, 3), (4, 1), (4, 2), (4, 3), (5, 1), (5, 2), (5, 3)\}$

(3) $A = \{1, 2, 3, 4\}, B = \{1, 3, 5\}$ なので, $A - B = \{2, 4\}, A^c = \{5, 6, 7\}, A \times B = \{(1, 1), (1, 3), (1, 5), (2, 1), (2, 3), (2, 5), (3, 1), (3, 3), (3, 5), (4, 1), (4, 3), (4, 5)\}$

演習問題 2.7 X を全体集合とし A と B をその部分集合とするとき, 次を証明せよ。

(1) $B \subseteq A \iff B^c \supseteq A^c$

(2) De Morgan の法則

$$(A \cup B)^c = A^c \cap B^c$$

$$(A \cap B)^c = A^c \cup B^c$$

(1) $A^c = \{x \in X \mid x \notin A\}$, $B^c = \{x \in X \mid x \notin B\}$ である。 $B \subseteq A$ が成立しているとする、

$$\forall x, x \in B \implies x \in A$$

が成立している。条件の部分の対偶は $x \notin A \implies x \notin B$ なので上の命題は

$$\forall x, x \notin A \implies x \notin B$$

と同値である。これは $A^c \subseteq B^c$ を意味している。

$B^c \supseteq A^c$ が成立しているとする、

$$\forall x, x \notin A \implies x \notin B$$

が成立している。条件の部分の対偶をとると

$$\forall x, x \in B \implies x \in A$$

となる。よって $B \subseteq A$ が成立する。

(2) 最初に $(A \cup B)^c = A^c \cap B^c$ を示す。そのためには $(A \cup B)^c \subseteq A^c \cap B^c$ および $(A \cup B)^c \supseteq A^c \cap B^c$ を示せばよい。

x を $(A \cup B)^c$ の任意の元とすると

$$x \notin A \cup B$$

が成立している。 $x \in A$ とすると $x \in A \cup B$ となるので $x \notin A$ である。よって $x \in A^c$ が成立する。また $x \in B$ とすると $x \in A \cup B$ となるので $x \notin B$ である。よって $x \in B^c$ が成立する。よって $x \in A^c \cap B^c$ となる。以上で $(A \cup B)^c \subseteq A^c \cap B^c$ が示された。

x を $A^c \cap B^c$ の任意の元とすると

$$x \notin A \text{ かつ } x \notin B$$

が成立している。 $x \in A \cup B$ とすると $x \in A$ または $x \in B$ が成立するが、上より共に成立しない。よって $x \notin A \cup B$ なので $x \in (A \cup B)^c$ となる。以上で $(A \cup B)^c \supseteq A^c \cap B^c$ が示された。

次に $(A \cap B)^c = A^c \cup B^c$ を示す。上で述べた様な証明もできるが、ここでは上の結果を用いる証明をすることにする。 A, B に対し $C = A^c, D = B^c$ とおき、 C, D に対し上の結果を適用する。

$$(C \cup D)^c = C^c \cap D^c$$

が成立している。この両者の補集合をとると $((C \cup D)^c)^c = C \cup D$ であることに注意すると

$$(C \cup D) = (C^c \cap D^c)^c$$

となる。 $C^c = (A^c)^c = A, D^c = (B^c)^c = B$ を用いると

$$A^c \cup B^c = (A \cap B)^c$$

となる。これが求めるべきものであった。

演習問題 2.8 演習問題 2.5 に対応する論理の命題を 1 章のプリントから探せ。

命題 1.1 (4) および (5) が論理に関する De Morgan の法則である。